

農村景観日本一 ウォーキングコース

富田総合案内図

- Aコース** (全長約4.0km)
- Bコース** (全長約5.3km)
- Cコース** (全長約3.0km)

ふるさと富田会館
～岩村城跡まで 約2.7km

ふるさと富田会館
～飯羽間駅まで 約2.4km

ふるさと富田会館
～岩村駅まで 約3.3km

地区内には下記写真のような案内看板が各所に設置してあります。この案内図とあわせて道標(みちしるべ)にお役立てください。



問い合わせ先 茅の宿とみだ ☎0573-43-4021

まち並みふれあいの館 ☎0573-43-4622



★大円寺棚田
現在の岩村城下町が形成される以前はこの地に城下町がありました。岩村城の正門がこちらの方角を向いているのはそのことが由縁です。

地域伝承行事から転じて、5つのお堂を座らずに巡ると願いが叶うと言われています。



農村景観日本一 富田ウォーキングコースガイドマップ



平成元年、富田地区の田園風景が国土問題研究会から「日本一の農村景観」と折紙をつけられたことに始まる。

同研究会は、山や川・森・建物など景観を形成する要素を総合的に分析する組織で、その中で富田地区は近代的な建物が殆ど無く、岩村城跡のある城山や水晶山の山並みを背景に、広葉樹や針葉樹の森、瓦と白壁の農家、ため池が水田の中に程よく配合されており「古い日本の農村景観を見事にのこしている」と称賛をうけました。



岩村城跡

岩村城は鎌倉時代(1185年)に築城された。大和の高取城(奈良県)備中の松山城(岡山県)と並ぶ日本三大山城の1つに数えられる城標高717mの山頂にあり、城下町を見下ろし四方の山々を一望することができます。

天然の峻険な地形をよく利用した要害賢固な山城で江戸諸藩の府城の中では、もっとも標高が高いところに築城されておりしかも明治維新まで存続したのが、この岩村城であります。

ウォーキングコース見どころ
Aコース
(全長約4.0km)
スタート:ふるさと富田会館

かやのやととみだ
かやの宿 とみだ

古民家を再生させた民宿です。築百年を超える広々とした家で一度に15人~20人まで民泊ができます。自然に触れ合いながらゆっくりとしたひとときをご堪能ください。

てんのうじんじや
天皇神社

少し足をのぼして...
はしもとゆうざぶろうほしよ
橋本祐三郎墓所
岩村地区では困窮する農民に慈悲を施し処刑された愛民代官として伝えられている。

よしだがわきょうづか
吉田川経塚

阿木に通ずる旧阿木街道の傍にあり、塚は大きい年代も建立者も不明である。この塔の特徴は水輪のキリークの梵字は阿弥陀仏の種子(象徴文字)が刻んであり密教系ではなく珍しい。岩村町一色地区の石室千体仏の種子と同じ浄土系の経塚である。



ウォーキングコース見どころ
Bコース
(全長約5.3km)
スタート:ふるさと富田会館

かやの宿とみだ
かやの宿 とみだ



少し足をのぼして...
やくしどう
薬師堂

正徳4年(1714)富田郷創建、本尊南無薬師瑠璃光如来像を祀り、医王如来として古来から尊崇され、延命法が修され盛んに信仰された。多くの如来像の中で唯一の物を持つ薬師如来の御利益は現実的で、十二大願によって病気を治す。特に本尊は眼病に御利益があり、絵馬(めの字)が奉納されている。

あみだどう
阿弥陀堂

元禄16年(1703)富田村差出帳にはお堂七尺四面境内竿除地とあり、境内には宝永5年(1708)の石碑がある。再建棟札によると宝暦4年(1754)に再建しているので古くからの信仰の拠点であったことが伺われる。阿弥陀如来は極楽浄土を作り、そこを治めている親しみ深い仏である。

のうそんけいかんにほんいちてんぼうしよ
農村景観日本一展望所

平成元年に岩村町の町づくり調査を委託された国土問題研究会(代表・京都教育大学木村名善教授)が富田地区を「農村景観日本一」と折紙をつけた。この展望所からは農村を一望することができる。

しもだうたこかひ
下田歌子歌碑

打杭峠にある「さかしま桜」を郷土の偉人下田歌子女史が詠まれた歌であり、筆は女史の自筆である。「松にのみ 千代はゆるさし山さくら はなもときはは咲くてふものを」と刻まれている。歌子の歌碑はこのほかに城山登山口の顕彰碑がある。

だいえんじあつ
大円寺跡

遠山氏の菩提寺として建武年間(1334年頃)、臨済宗の高僧峰翁祖一禅師により開創されました。元亀3年(1572年)武田氏的美濃攻撃のおり、秋山信友により焼き払われました。現在は石垣のみ残しているが、明覚山大円寺を中心に、多くの伽藍を配し、境内は数ヘクタールにおよび美濃国最大の大寺院であった。

だいえんじたなだ
大円寺棚田

平成20年12月18日開催の「ぎふの棚田21選」選定委員会にて、選定されました。富田地区の奥に位置しており、美しい景観を形成しています。また、冬になると雪化粧した御嶽山の絶景がご覧いただけます。

かんのんどう
観音堂

富田観音堂は延宝年間(1673~1680)に、富田郷民が庶民救済を願って観音様をお迎えして建立し靈験あらたかな観音様として信仰を集めて来たが、安永年間火災で焼失、天明元年(1781)にお堂を再建されたものの、観音様が火災のままで安置されていたので、天保7年(1836)に富田郷民の浄財で名古屋から聖観世音菩薩を迎え、東光院十四世で開眼供養を行った。

少し足をのぼして...
こうほうどう
弘法堂

本堂の字名が^{きんぼう}山堂となっていることから庚申さまも祀られている。本堂には、高野山弘法大師像が祀られ、空海大師信仰は、行動力にあふれる行脚像に象徴され、弘法講は全国で江戸時代に最も盛んとなり念仏、和讃を唱え心に根ざした教えとなった。本堂でも春・秋に集い弘法様の行事が行われている。

ウォーキングコース見どころ
Cコース
(全長約3.0km)
スタート:ふるさと富田会館

吉田川経塚

ぶんねきょうづか
分根経塚

分根の貯水池の東丘上にあり、密教系の五大種子四転の正式の塔である。銘文がないので建立の年代も事情も不明であるが城の北西にあたり鬼門除けと考えられる。

眺望ポイント

いむらはんてつぼうまとは
岩邑藩鉄砲的場

幕末岩邑藩は近代的戦法を採り入れ足軽鉄砲隊を組織し実弾射撃訓練を行った史跡あと。

少し足をのぼして...
しゃかどう
釈迦堂

元禄16年(1703)富田村差出帳の免税御除地には釈迦堂九尺四面、境内縦二十三間横十五間と記され、棟札には寛保3年(1743)東光院住職の改修祈禱とある。堂内には仏教の創始者、釈迦如来像が祀られている。他の仏像と違って印度に45年間説法を続けた実在の如来像で、その教えは大きな力で人間を救う源流となっている。

とうこういん
東光院

当山は大円寺に属した寺であり、大永年間(1521~28)に打杭の山中に開創された。元亀3年(1572)11月、大円寺焼失の折、本尊不見日観音(11面)が移されたと伝えられる。後に大円寺再興を志すも叶わず、当山を現地に移して大円寺の代りとした。本尊不見日観音は秘仏とされるが、昭和15年6月17日に、大千魍の時に開帳され、大雨が降った。不見日の由来は、日を見ないであり、雨乞いの観音さまである。

こうしんどう
庚申堂

江戸時代初期に東光院の南側にあったとされる。元禄16年(1703)の富田村差出し帳に(庚申堂九尺四面 済臨庵と申し二間梁に三間の草庵...)とある。現庚申堂は明治の終わりに東光院へ移築され「弘法大師」と「子安観音」が合祠されている。